

# 平成21年度病害虫発生予察注意報第4号

平成21年10月16日  
愛 知 県

作物名：キャベツ、キク  
病害虫名：オオタバコガ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 9月下旬以降県内各地のフェロモントラップによる誘殺数は、平年と比較してキャベツ（1か所）で1.5倍、キク（2か所）で1.8～3.1倍と多くなっている。
- (2) 10月上旬のキャベツでの巡回調査の結果、100株あたりの寄生株率が1.8%（平年値1.5%）で、過去9年で3番目に多い。さらに被害株率が10%を超えるほ場も見られる。また、キクでは9月下旬の調査で被害ほ場を多数確認している。
- (3) 10月9日発表の1か月予報では、前半は気温が低いものの高気圧に覆われ晴れる日が多いと予想されており、オオタバコガの生育に好適な条件が続く。

#### 4 防除上注意すべき事項

- (1) キャベツでは結球始期までの防除が重要で、特に中齢期以降の幼虫はキャベツの結球部に食入することもあって薬剤が効きにくいいため、ほ場をよく観察し、発生を見たら若齢幼虫のうちに防除する。キクでは生長点や花蕾を加害されると芯止まりとなり、商品価値がなくなるので、早期発見、早期防除に努める。
- (2) 薬剤感受性が低下しないように、同一系統の薬剤を連用しない（表）。
- (3) 農薬の散布に当たっては、他の作物への飛散防止に努める。
- (4) 薬剤はラベルの表示事項を守り使用する。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤と使用基準

作物	薬剤名	薬剤の 系統 <sup>注)</sup>	希釈倍数(倍)	使用時期	使用回数
				収穫前日数	
キャベツ	エスマルクDF	a	1,000	発生初期但し収穫前日まで	4回以内
	ゼンターリ顆粒水和剤	a	1,000	発生初期但し収穫前日まで	4回以内
	フローバックDF	a	1,000	発生初期但し収穫前日まで	4回以内
	ファルコンフロアブル	b	2,000	収穫7日前まで	2回以内
	プレオフロアブル	c	1,000	収穫7日前まで	2回以内
	コテツフロアブル	d	2,000	収穫3日前まで	2回以内
	フェニックス顆粒水和剤	e	2,000	収穫前日まで	3回以内
キク	ラービンフロアブル	f	1,000	発生初期	6回以内
	オルトラン水和剤	g	1,000	発生初期	5回以内
	ロムダンフロアブル	b	1,000	発生初期	5回以内
	ライトニング	h	2,000	発生初期	4回以内
	デルフィン顆粒水和剤	a	1,000	発生初期	4回以内
	プレオフロアブル	c	1,000	発生初期	2回以内
	スピノエース顆粒水和剤	i	2,500～5,000	発生初期	2回以内

注) 薬剤の系統 a=BT剤、b=IGR剤(脱皮促進)、c=プロペニルオキシフェニル系、d=呼吸阻害剤、e=ベンゼンジカルボキサミド系、f=カーバメート系、g=有機りん系、h=オキサダイアジン系、i=スピノシン系

#### 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ  
電話：0561-62-0085（内線471）

## オオタバコガについて

### 1 形態

オオタバコガの卵は直径 0.4mm 前後の饅頭型、色は淡黄色でふ化直前には黒化する。ふ化幼虫は灰褐色、2 齢幼虫は赤褐色を呈する。老齢幼虫は体長 40mm くらいになる。中齢期以降、幼虫の体色は淡緑色から濃褐色まで変化に富むがキャベツの場合は緑色系が多い。ハスモンヨトウなどと異なり、幼虫はまばらに生えた長い毛が目立つ。成虫は体長約 15mm、開張約 35mm であり、体色は黄褐色から褐色で不規則な濃色の斑紋がある。



図1 オオタバコガの各態



図2 幼虫の色彩変異

### 2 生態

産卵から羽化までの期間は 20℃で約 63 日、25℃で約 36 日、30℃で約 25 日であり、夏期には 1 世代に要する期間は約 1 か月で年間 3～4 世代を経過する。雌の産卵数は 200～300 個で、卵は比較的若い葉の裏面、花蕾、果実等に 1 個ずつ産みつけられる。卵期は 3～5 日で、幼虫は 5～6 齢を経過する。老齢幼虫は浅い土中に潜り蛹化する。夏季が高温で日照の多い年は発生が多くなる。被害が最も多くなるのは 9 月である。

### 3 被害

キャベツでは主として 3 齢期以降に結球部に食入し、甚大な被害をもたらす。キクでは生長点や花、蕾などに潜り込んで食害するため商品価値は著しく低下する。



図3 キャベツの被害



図4 キクの被害